

る通り嫁に上げませう——、ではあるが、私の方もこれだけの構へをして、親類一統の手前もあるから、恰度今おもよが大阪へ行て居るのを幸に、若旦那を連れ立て、一遍この貝野村へ乗込んで、私の家で一晩だけ、婿入の式をして貰ひたい、それで親類へは申譯が立つ、一晩泊つて下されば、明る日は嫁入として、改めて大阪へ上げませうと、斯う云ふ話に纏まつたものですから、大阪の方では大きに喜んで愈々甚平さんが始めからの關係で仲人役、黄道吉日を撰んで駕籠を五挺誂へる、最初が甚平それから若旦那、おもよさん、女中、若い者と五つの駕籠をば持つて丹波の貝野村へ繰込んで参りました。貝野村の方では、御親類一統が、お婿入といふのでお待兼ね、その晩は立派に婿入の式を行ひまして、お開き、お兩人は金屏風を圍ふてお寝みになった。明る朝は若旦那の方が早くお目覺め「おもよ、椽側へ出なされ、好い心持ちやないか、ズツト斯う山を見晴らして、逆も大阪ではこんな景の好いところは見られません、何といふ好い景やらう、此處で顔を洗ひましょ……オイ、誰か来いよ、オーイ」「ハ—イ、ハイお呼びでござりまするか」「オウこれは女中さんか、今日が覺めました」「さようか、それはお早うござりまする」「イヤお早よう……あの濟まんが、ちようづを廻はしてお呉れ」「ハイ何んでござりまする」「ちようづを廻はしてお呉れ」「ハイ畏まりました、アノ旦那さま」「ウン、鍋か、何んぢやの」「大阪の旦那さんが、ちようづを廻はせと云ひます、どうしたものだすやろ」「そんな事を私に應へに来る事は無い、料理場へ吩咐けなされ」「ア—、料理場へ云ひま

するか、承知しました……喜助どん」「何んぢや、おなべどん」「大阪のお客様の御注文ぢやでの、ちようづを廻すのぢや、二人前拵へてお呉れ」「エツ、ちようづを廻せツて……おなべどん、間違ふては居らんか……確かにちようづを廻せかい、こりや困つたなア、俺ア長らく婚禮の庖丁は持つが、どうもちようづを廻すといふのはやり付けん、こりや旦那様に聞いて来るわ……エ—旦那様」「オウ喜助か、何んぢや」「唯今大阪のお客様の御注文でござりますが、ちようづを廻せといふ奴を、俺ア今まで、田舎の板場でやつた事がないんで、どんな物を拵へて出しますか」「それやから困るのぢや、田舎はなア……大阪の人には面目なふて、そんな事を尋ねる譯に行きませんし……斯うしよう、アノお寺の越南和尚は能う何んでも知つて居る、越南和尚に聞いたら解らう、お前チョツト行て、ちようづ廻すて、何の事ぢやと云ふて聞いて來て下され」「畏まりました」早速お寺へ参りました喜助は「へイ、今日は……」「オウ誰方ぢやいな……オウ、これは喜助さんぢやないか、何んの御用事ぢや」「へイ、チョツト物を尋ねに來たんだすが、ちようづを廻はせといふのは、何んな事でせうか」「何んぢや、ちようづを廻はせやて……待ちなされ、愚僧もな随分書物を調べたが、ちようづを廻はせといふ事はないがハテナ、何んであらうな、どうも分らんが、エ—と……ア、さうや喜助さん、これは文字合せぢやないか、文字合せとすると、ちようは長い、づは頭と讀むよつて、ウンこりや、長い頭を廻はせといふのぢやらうな」「長い頭を廻すんですと、えらい事になりましたな、イヤ何うも有難う